



## 一年間の保育(一)

大阪市御津幼稚園 宮 本 光 代

何處も彼處も嬉しい花の便りに心の時めく四月が参りました。學校を出まして丁度まる三年の年月が經つて春が再び廻つて來たのでございます。靜かに後を振り向いてみます時、今更の様に時の流れの早い事を考へて、何ミも言葉もございませぬ。最初就職致しました年の九月に赤組との縁が結ばれましたから、一昨年は紫組、昨年は又赤組、三年も年少組計りを受持つてまるりまして再び新學年が訪れました。今年、初めて年長組を受持つ事になつたのでございませぬ。軟かい春風を受けて私の心は新しい喜びでいっぱいでございますが、さて、之れからの一年間、どんな生活が顯はれて行きますか、其れは今後の楽しみを致しまして、今、過ぎ去つた年少組一年間の様々な事を日誌のペー

ヂをめくり乍ら思ひ出すまゝに書き留めて見たのでございます。

### 四月

\* \* \* \*

四月八日に入園式がございましてから新しい三十人の子供を迎へる事になりました。當日母親に連れられて初めて遇つた子供の姿は、まあ何さいぢらしくも幼なかつた事でございます。中には満四歳に満たない子供も四人交つて居ります。一番年下の組でございますので尙更あきけない其の姿を見るに、抱き占めてやりたい様な可愛さでいっぱいございました。今日からこの子供達に先生と呼ばれてこの子供達を育て、行く事になるのだと思ひます。何さして

も之の一年間一所懸命になつて無事に過して行かねばならぬ覚悟を定めて、燃え立つ思ひで進んで行かうぞ致しますのに直ぐ後から「自分の様な者に果してそんな大役が出来るのかしら」云、躊躇ふ弱い心が時々暗い蔭を作るのでございまして。それから毎日、張り切つた生活が續けられて行きました。最初の中は未だ母親の膝元が懐かしい

あの子達に、決して、淋しい思ひをさせてはならぬこの氣遣ひから皆が一緒になつて面白く遊べる様に思ひまして汽車遊びを始めました。それは全部の子供を次々に、前の子の肩を持つて繋ぎ合はせて、之れを汽車に見立てまして赤旗を先頭に振り立て乍ら「汽車々々走れ機關車は先に、荷物は後に、ポツポツポツポツ走れ、シユッシユッポツポツ。

シユッシユッポツポツ」を繰返し繰返し歌ひ乍ら、園庭をぼつぼつ歩き廻るのでございまして。斯う致しますと置き忘れる子供も手持無沙汰の子供も無くさうしても附添ひを離れない子は片手で前の子供の肩を持ち、他方の手で母親の着物の袖をシッカリ掴み乍ら矢張り一緒に汽車中の一人に加つて居りました。それが赤組計りでなく紫組も樺組も黄

組も共に、長蛇を作つて、「汽車々々走れ機關車は先に、荷物は後に……」を歌ひ乍ら歩きまはり行違ふ有様は、傍で見ると和やかな光景で子供も非常に喜んで居ります。

そして或時は砂場で或る時は遊動圓木で次はぶらんこの前で云ふ風に停車して其處で充分遊びましてから一先づ保育室へ連れて入るのでございます。お部屋へ入りましたならば鼻をかむ事と櫛で髪を梳るこゝゝ雑巾で机の上を清めるこゝゝ之れだけの仕事を致しまして改めて朝の御挨拶を交はします。その他にオルガンを鳴らして歌を歌つたり、お歸り前には、帳面へお判を押して貰つたり、する事なす事が皆珍らしい事計りですので好奇心も手傳つて、非常に興味深い様子でございました。最初の中は九時の始業で十時半のお歸りにして居りましたのが徐々に十一時半まで延してまゐりまして汽車遊びも或は切符を作つて動物園行きに致しましたり花見の客を乗せて櫻の花の下でお遊戯をいたしましたり一週間位面白く續きましたでせうか。其の中に之れが次第に單調になり出しまして、わざと肩持つ手を離して、「やゝ切れたく」を騒ぎ出したり一人で走り出し

たり致しまして途中屢々停車して修繕しなければならなくなりました。けれど日を重ねるに随つて追々幼稚園の環境にも馴れ一人でも安心して遊べる様になつて参りましたので、其の後は特別な子供の誘導に力を入れてみる事に致しました。

初め三人計り部屋へ入る時はさうしても母親を離さなかつたのが間もなく窓の外で見てゐて貰ふ事になり門の傍でもよい事になり、して二週間位で大體附添ひを離れて了ふ事が出来たのでしたが一人、三年児の中に、片時も附添ひの手を離さず保育室へ入るのが苦になつて仕方が無かつた子がございましたが或日試みに女中に退いて貰ひましたのが悪く、後で猛烈に泣き出しました。其の後風邪を引き添へ二週間計り床について居りましたのが病氣が癒つてから幼稚園へ行くのが苦に成り出して、休園する日が多くなりました。其の前の苦い経験が残つてゐたからでございませう、家でも未だ年も行かないのだから一年延したらいだらうと云ふ事になつてそのまゝ休園を續けて居りましたがさうく五月の中頃退園して了ひました。こんな事情で

折角預かりました子供の一人を早々失ふ事になりましたのは思つても思つても残念で、悲しい事でもございました。然し後の子供はお蔭で益々樂しみを加へて参りまして二十日頃から會集場へも出る様になり二十九日の天長節も舊園児と共に、遊戯室でお祝ひ申上げる事が出来ました。

## 四月中の保育事項

### (一) 手技

お山(赤色摺み紙) 自由畫 園旗(麥藁つなぎ) 櫻ちらし(貼り繪) 國旗(麥藁つなぎ) 粘土製作(園子)

### (二) 談話

一、花子さん 一、猫のお見舞 一、小さい小さいお婆さん 一、可愛いポチの働き 一、つぶ濡れになつた次郎さん

### (三) 唱歌遊戯

はこぼぼ、汽車々々走れ、僕は軍人、つぼめて開いて

### (四) 行事

一日、始業式 八日、入園式 二十九日、天長節  
三十日、身體検査

## 五月

一日から眞鯉緋鯉の鯉幟りが園庭に立てられまして毎朝子供達を元氣に迎へて呉れる事になりました。築山はつゝじの花盛りですし藤棚の薄紫の房も日に日に伸びて参りましたし、木の芽も遅れじみ計り緑の葉を勢良く擴げてまゐりました。一年中で一番眺めの美しい時でございますので随つて外に出て遊ぶ時が多うございました。未だ自由遊びに致しました所が砂場にしろ江り臺に致しましても大體私を中心集つて遊んで居りました。それで限られた遊具では、奪ひ合ひや仲間はづれの子供が出来まして折角此方の心盡しも返つて、禍ひの種を作りますので一度出した飯事道具も子供が大喜びしてゐたにも拘らず直ぐ又引こめて了つた事もございました。

然し大勢の子供の中には、保育室の中ですみ顔色も生々して相當友達同志の交渉も行はれて居りまして外に出るさ何だか怖けた様子で遊ばなくなる子もございます。斯う云ふ風なのは、何か私に訴へたい事でも心の中に持つてゐ

## 五四

るのではないかしら始終氣になりつゝも、又出来るだけ力づけて内から誘ひ出して皆と一緒に外遊びの面白さを樂しむ様に仕向けて行かうぞ致しました。外へ々々、外出計りを勧めるぞ申しまして、保育室は、自分達のお部屋として特別な親しみ温かみを持たせたい。遊び疲れた時、話し合ひたい時、子供の心に任かせて何時でも之の部屋に足を入れる事によつて慰安と安心が得られる様にして行きたいとは始終願つて居る事でございます。

保育室と遊戲室とは續いて居りまして朝は隔日に年少、年長の會集が此處で行はれて居りました。拍子の合團で一旦保育室へ入つて整容を濟ましてから靜かに入場して、整列が出来ますと遙拜、君ヶ代合唱、皆の挨拶、園長先生のお話、云ふ順序で始められます。そして後は、歌を歌ふ時も、歌はない時もあつて、保育室へ歸りますと、引續き保育項目の中の何か一つを致しまして自由遊び。そして十時に再び拍子の合團でお部屋へ入つて、お歸りの支度に取りかゝる。大體そんな風な形式で毎日の保育が行はれて居りました。氣持良く晴れた日などは、早く歸りますのが

惜しい位で、お辨當を開いて午後まで續けて居りたいと思ふ事もある程に今年の組は割合に順調に進んで参りまして、特別に取扱はねばならない様な子供も申しまして門の所で附添ひの顔が見えなければ未だ承知出来ない子供も、何と云はれましても遊戯をしない子供が異例でございましたが暫く時を待つ事にして居りました。

そして初めての園外保育の一日を助松の海濱で愉快に過し、引續いて嬉しい端午のお祭りもあつて其の日はお二階の廣間で、御祝ひの御馳走を頂いたのでございました。

## 五月中の保育事項

### (一)手技

自由畫 舟(摺み紙) 三色の旗(塗り方) 麥藁つなぎ  
粘土製作 自由畫 チューリップミ蝶(貼り繪) 蝶々  
(摺み紙) 粘土製作(櫻餅) 塗繪(チューリップ) 蝶つなぎ(麥藁通し) お菓子(切り紙にて) 自由畫 弓と矢の製作 鯉職りの貼り繪

### (二)談話

一、兎の友達 一、牡雞と猫 一、猫と小鼠 一、猫の

お見舞 一、金太郎 一、鼠の親子 一、白いもの

### (三)唱歌遊戯 (◎標は歌のみ)

◎一、鯉職り 一、金魚 一、金太郎 一、お玉杓子  
一、競技(人形送り) 一、出して引つこめて

### (四)行事

八日、體格検査 十日、新橋渡初幼兒旗行列祝賀  
十八日、記念撮影 十二日、口腔検査 二十二日、  
朝顔の苗植 二十四日、園外保育(千里山) 二十六  
日、端午の節句會 三十日、東郷元帥薨去遙拜式

## 六月

此處の幼稚園は大阪市としては、可なり澤山の樹木が植ゑられて居ります。それが暖い光を受けて日増しに青々として育つて参りました。藤、柳、無花果、もみぢなぎ、新緑の頃の幼稚園も又一しほでございます。此の頃更に園庭の所所、手を加へる事になりまして先づ兎小屋がグリーンへのンキで塗り替へられましたし、池に噴水が設けられて赤い金魚も澤山放たれました。金魚と共にお玉杓子をわざと

郊外から拾つて持つて来てくれた使丁の心盡しも有難く受

けた事でございます。元來が自然に恵まれない都會地ですので日當りや土の關係で草木の肥立ちが悪く困つて居た所へ一度に色々の草花が買ひ求められましたので花壇も急に賑やかになつてまゐりました。此の外に、嘗ての日、子供達と共に植ゑました朝顔の芽も程良く伸びて参りましたので如露をさげて自分の受持ちの鉢に水をやる事が毎日の楽しい仕事になつて居りました。

一時如露を用ふのが非常にはやりまして花壇以外の路でも處構はず撒き散らして、水溜りを作つたり、靴の中へ受けたら致しまして、エプロンから洋服までずぶ濡れにしてつた事もありました。水をいぢつて遊ぶ事は砂遊びと共に、子供には最も興味深く喜ばれる事、百も承知して居りましたが、大人の目から見ましてさうも不都合な事になりやすいので悉く子供のしたい儘に任せて置くわけには参りませんでして干渉がましい事を時々申しますが其の都度、最もいゝ保育方法は子供を叱らずして導き育てゝ行く事だ云ふ氣持が強く出て参りまして反省させられるので

ございました。

入梅致しましてからはじめ々鬱陶しい雨の日が多くなりました。遊戲室や大積木は大方年長組に占領されて了ひますので自然保育室の中計りで繪本をみたり小積木を使つたり飯事道具を擴げたりして遊んで居りました。そして霽れ間を待ち詫びては、喜んで外へ出でまゐります。園庭では藤に變つて二本の榴柘の大本が花盛りになつて参りまして、それが雨の後は殊に澤山の赤い花を落して居りますので其れを拾ひ歩くのが又樂しみな事になつて、雨の降る中を止められるのも聞かずに取りに行つて濡れて歸つた子もございました。其の花は飯事や首環に使つたり兎に食べさせたり致しますので子供仲間でも重寶がられて居りました。花びらを水に浮べて金魚屋でつこを始めましたのも良い思ひつきでございます。

然し暑さは一雨毎に加はりました赫々輝やく太陽も次第に暑い々々夏の前兆を示してまゐりました。

六月の行事を致しましては時の記念日がございましたが其の他は季節に從つて自然物中心の保育が行はれて居りま

した。

### 六月中の保育事項

#### (一)手技

- 塗繪(鯉幟り) 粘土製作 自由畫 お菓子(切り紙) 飛行機(摺み紙) 置時計 粘土(果物店) 自由畫 きりぬき(摺み紙) 粘土(八百屋店) 籠(野菜入れ。畫用紙にて) 金魚鉢(金魚を貼る) 粘土(八百屋續き) 汽車の貼り繪 自由畫(汽車) 蝋籠(畫用紙にて) 二雙船(摺み紙) 金魚鉢(金魚の切り繪) 塗繪(飛行機)

#### (二)談話

- 一、桃太郎 一、赤いめんざり 一、鼠の親子 一、金魚さかへる 一、赤ん坊爺さん 一、三郎さんさ鮎 一、お爺さんさ鼠 一、兎の友達 一、三匹の仔犬のはなし

#### (三)唱歌遊戯

- 一、汽車が通る 一、ボートレース 一、蝋 一、かいぐり 一、猫さ鼠の競争 一、ボート 一、お玉杓子 一、大きなお日様

#### (四)行事

- 五日、故東郷元帥國葬日、午後十一時遙拜式 十日、時の記念日 十一日、本日より八時半始業 三十日、月例身體検査

#### 庭 隈

よく晴る、五月の空よ庭隈に  
舊き櫻の影長うして

影伸びて窓に至れり若末葉うらなは  
ゆるゝにつれて光れる硝子

むらさきの蔭ばうれしも藤たなの  
したはほのかに風も匂ひて

(附屬幼稚園にて)